

Ⅲ 点検・評価の結果

1 千葉市教育委員会による自己評価

(1) 学校教育

学校教育分野については、平成 21 年から学校教育推進計画に基づき各種施策を進めています。この計画においては、90 に及ぶ達成指標を定め、毎年度、施策の進捗状況を、数値により市民の皆さんにお示ししています。これほど多くの達成指標を策定し、毎年度評価を行う自治体は全国でも珍しいものですが、市民の皆さんから教育行政への理解を頂くため、計画の評価を今後ともしっかりと行ってまいります。

①わかる授業を推進し自ら学ぶ力を身に付けるとともに、豊かな心と健康な体をはぐくむ

学力、体力については、ここ数年の各種調査をみますと、良好な状況にあると言えます。これは、日頃の子どもの頑張り、教職員の努力によることが大きいことはいままでもありませんが、本市における学校に対する取組も、一定の効果を上げていると考えています。

例えば、全学校への図書館指導員の配置や、朝読書による読書活動の充実、国語力の向上に効果を上げていますが、各教科等においても調査研究などの読書活動の充実を図り、読書の幅を広げることが今後一層大切になります。

また、理数科教育においては、少人数指導教員や理科支援員の配置が、理科・数学離れの対応として、大きな効果を上げています。さらに、算数・数学への児童生徒の興味・関心の向上を図るため、指導の重点化・指導方法の工夫・改善を行うことが今後重要と言えます。

さらに、教育活動を支援する道具として、授業に ICT¹を活用することは、わかる授業を推進するために、非常に有効であることが明らかになっています。今後、市の研究指定校の実践内容や成果を各学校に広め、さらなる ICT 活用を推進していきます。

体力についても、体育の授業の充実に加え、学校給食の市内小・中・特別支援学校への完全実施により、子どもたちが栄養のバランスのとれた昼食をとれていることが、良い結果に結びつく要因の一つとなっていると考えています。

②学校・家庭・地域が一体となって子どもの成長をサポートするとともに、子どもの学びを支える教育環境を整える

学校と地域との関わりについては、すべての市立小・中学校においてセーフティウォッチャーが登録されており、地域ぐるみで子どもたちの安全を見守る体制があります。

また、「子どもの夢をはぐくむ学校サポート推進事業」をはじめ、地域の方々による

¹ Information and Communication Technology の略で、コンピュータや情報通信ネットワーク（インターネット等）などの情報コミュニケーション技術のこと。IT と同義的に用いられるが、コミュニケーションの重要性を加えた表記となる。日本語にすると「情報通信技術」と訳される。

学校支援が行われており、さらに、学校評議員会を開催するなど開かれた学校づくりを推進しています。学校は、地域から様々なご協力をいただく中で、学校評価を実施し、ホームページを開設する等、学校の情報を広く公開することにより学校と地域、家庭が連携した取組の充実に努めてきました。

さらに、ネットいじめに代表される新たな教育課題や防災教育など、ニーズが高まっている課題に対しては、一層、教育委員会全体として取り組む必要があります。また、他市と同様、若い教員の比率が増えていることを踏まえ、教職員の資質の向上を図る機会の充実に努めるほか、教員が子どもたちと触れ合う時間を確保するため、学校現場における教職員の勤務実態（在校時間等）の調査を継続的に行うとともに、平成 24 年度の各学校における勤務負担軽減の取組みの結果を集計・分析することにより、効果的な方策の洗い出しを行います。一方、校務処理の I C T 化などにより事務処理の負担を軽減します。

教育用コンピュータの整備については、統合により廃校となった学校の機器を学校規模に応じて移設すると同時に高等特別支援学校への校内 L A N 整備を実施しましたが、全体の整備率向上については、現システムの利用促進と評価をする必要があることから検討課題となっています。今後は、整備率の向上と合わせて、最新のタブレット型端末の教育効果などについての検証を行い、さらなる学校教育の I C T 化に向けた整備を進める必要があります。

学校施設の耐震化では、学校が子どもたちにとって 1 日の大半を過ごす生活の場であるとともに、地域にとっても災害時の防災拠点として重要な役割を担うことから、その早期完了を最重要課題として取り組んでいます。このため、当初計画を 1 年前倒し、平成 26 年度までの完了を目指します。また、屋内運動場の非構造部材の耐震化についても、平成 27 年度までの完了を目指して進めていきます。

(2) 生涯学習

生涯学習分野については、平成 23 年度から「第 4 次千葉市生涯学習推進計画～学びあい、支えあい、地域が輝くまち・千葉市を目指して～」に基づき各種施策を進めています。

① 学びを支える環境づくりと学ぶ機会の提供

生涯学習や社会教育を振興させる上で重要な役割を担う生涯学習センターをはじめ、公民館、図書館、博物館等の専門的な機能を持つ多種多様な施設の老朽化した設備を改修するとともに、ソフト面では未来の科学者育成プログラム事業に着手するなど、学習環境及び機会の充実に努めてまいりました。

また、公民館では、利便性と公平性を向上させるため、平成 25 年 10 月からインターネットによる予約を導入できるよう準備を進めており、これにより、団体育成と合わせて、新規利用の促進と稼働率の向上が図れるものと考えています。

さらに、文化財保護分野では、多種多様な文化財を価値・内容によって適切な保護措置をとるとともに、教育資源として活用するため、博物館と埋蔵文化財調査センターが

連携して普及啓発事業の充実に努めています。また、有形・無形文化財については、毎年、本市の指定や登録を進めることで後世へ伝承しています。

本市は、加曽利貝塚をはじめとして世界有数の貝塚密集地帯であることから、貝塚として初の国特別史跡指定を目指し、出土資料の再整理及びソフト・ハード両面の整備を進めています。

市民意識醸成のために欠かせない千葉の歴史や文化を体現する文化財を再認識してもらうとともに、幅広い年齢層の市民に文化財の価値と内容を伝えて歴史や文化に親しめるような施策を進めています。

以上のとおり、各施設においては、それぞれの機能を生かし、学習の場の提供や現代的課題・地域課題・市民ニーズ等に対応した多くの事業を実施しており、市民に活用されています。

②学習成果が生きる地域づくりを進める

学習活動を通して培われた学びの成果は、市民が主体となって展開される家庭教育の支援や放課後の子どもの居場所づくり等の事業や生涯学習施設でのボランティアの活用に生かされており、地域の教育力の向上につながっています。

生涯学習の重要性が高まる中、今後も学習機会の提供や学習環境の整備に引き続き取り組みとともに、一人ひとりの市民の持つ知識や経験が地域づくりに生きる社会の実現を推進していきます。